

第九飛行師團司令部 歴史

陸軍

一 編成完結月日 場所

昭和十八年 十二月 三十日 昭南

二 統帥發勅月日 場所

昭和十九年 一月 十日 パルビン

三 師團編成當初迄終戦時ノ軍隊区分別表ノ如シ

四 當初ノ任務ノ次ノ如クナリ

一、パルビン、パンカマ、フランダン、兩製油所ノ防空

二、印度洋哨戒

三、船團掩護 (ピラト、ホム、イント、ト、メ、キ、ー)

昭和十九年 七月 下旬 昭南ヨリ 防空任務ヲ解除 (地上防空部隊

並ニ隷下ニ降志)セシメ、スニテ、昭南防空航空作戦ヲ擔當ス

五 師團ノ定規志ノ主要作戦ニ兩製油所ノ防空任務ヲスルニ

島ニシテ諸島ノ防空作戦ナリ 主要戦ノ次ノ如シ

昭和十九年 夏

八月 下旬 B29 パルビン 末發ニ對シテ 邀撃戦ナリ

十月 中旬 K島 末發機動部隊 攻撃

十二月 下旬 B29 製油所 防空 攻撃

昭和二十年 夏

一月 四月 B29 パルビン、ロスマウエ 末發機動部隊 攻撃

一月 三十四、三十九日 パルビン 末發ニ對シテ 防空 攻撃

機動部隊 攻撃

三月 一日頃 K島 攻撃機動部隊 攻撃

四月 十一日頃 B29 パルビン、オレ、ロスマウエ 末發機動部隊 攻撃

十六日頃 B29 末發機動部隊 攻撃

(日本ノ一トシ)

(2) - II - 3) 航落

(10 / 88) - II の 4 (3) 及 II 航落

0291

陸軍

飛行第八十七戦隊下史

一 編成年月日及編成地

昭和十三年三月一日 滿洲ハルビン

二 編成より終戦迄ノ経過

一 昭和十三年三月十五日滿洲國圍子飛行場ニ展開ス

二 昭和十八年七月六日 日平 柏飛隊場ニ前進内地防衛ニ任ズ

三 今年十一月下旬地後同付三五年ノスエド島ハルビン飛行場ニ

展開ハルビン製油所防衛ニ任ズ

四 昭和十九年五月六日同地後ハルビンノメーライノ飛行場ニ

前進ハルビン外戦参加中今年三月七日 スエド島ハルビン

ニ帰還ス

五 昭和二十年三月一日 タンジュンノトニ移駐ス

同年七月三日 シンガポールのデンガーノ飛行場ニ転進同地

防衛ニ任ズ終戦ニ至ル

三 参加セル主要作戦

一 ハルビンノ防空戦ニストウノ島及改敵軍去碎作戦

ニヒトノ作戦

独立飛行第七十四中隊

一、編成年月日及場所

昭和十六年七月二十九日

滿洲「千ヶハル」

二、編成より終戦迄ノ経過

1. 昭和十六年十月 滿洲 發 台灣 台南ニ前進ス

2. 今年 十二月 台灣 屏東發 比島 レンギ島ニ前進

全比島攻略戦ニ 其定作戦ヲ實施ス

3. 昭和十八年五月 「シマツ島」バントニニ前進 訓練實施

4. 昭和十八年七月 「シマツ島」本發「三ツギヤ」ブーツニ前進

5. 昭和十九年三月 「三ツギヤ」島發比島「クレーク」ニ前進

6. 今年 五月 比島發「バレンバン」飛行場ニ前進 侵用ス

7. 昭和二十年五月 「バレンバン」飛行場ニ移駐 終戦ニ至ル

三、参加シテ主要作戦

1. 比島攻略戦

2. 「バレンバン」半島攻略戦

3. 全比島其定作戦

4. 「三ツギヤ」島周回ノ 襲撃戦

5. 「三ツギヤ」島防衛作戦

陸軍

第三十二航空地区司令部

一 編成年月日 場所

昭和十八年十二月三十一日 パレンバン

二 編成より終戦迄ノ経過

昭和十九年一月十日より指揮下部隊ヲ南部、スマタラ各飛行場ニ展開セシメ、パレンバンニ要地防空注意ニ反攻、真碎作戦ニ参加、密接ニ飛行部隊ニ協力シ終戦ニ至ル

第十四飛行場中隊

一 編成年月日 場所
昭和十八年二月十八日 パレンバン

二 編成より終戦迄ノ経過

昭和十八年三月五日、マレー派遣ノ為、パレンバン港出港シ、今年三月三十一日、テネリノ飛行場(ミンガロル)ニ展開シ、昭和十九年五月一日、スマタラ派遣ノ為、シカホル港出港シ、五月四日、パレンバンノ飛行場ニ展開シ次デ、

昭和二十年五月三日、ランジニバトノ飛行場展開終戦ニ至ル、其ノ間左記各飛行場ニ在リテ飛行部隊ニ協力セリ、

三 参加セル主要作戦

要地防空注意、スマタラノ防衛作戦

(日本ノート編)

第三飛行場中隊

一 編成年月日 編成也

昭和十八年八月三十日 支那 廣東

二 編成より終戦迄ノ経過

昭和十八年十月十四日、スマトラ派遣、為廣東發

昭和十八年十一月三十四日、パレンバン、上陸同日、パレンバン飛

行場ニ展開、飛行部隊ニ協力シ終戦ニ至ル

三 参加セル作戦

パレンバン防空、近ニスマトラ島防衛作戦ニ参加ス

第八十八飛行場中隊

一 編成年月日 編成也

昭和十四年六月一日 支那 廣東

二 編成より終戦迄ノ経過

昭和十五年九月二日、廣東ヲ發、欽縣、パレンバンニ至リ

各飛行場ニ展開、南佛印進駐作戦等ニ参加ス

2 今年十月十五日、パレンバン飛行場ニ展開

3 昭和十六年八月七日、西貢飛行場ニ移駐

同年九月二十三日、パレンバン飛行場ヲ前進

同年十月二十三日、河内飛行場ヲ前進、展開ス

2 昭和十七年十一月三日、パレンバンニ前進、命セラル、翌十八年

一月十日、同地ニ展開、完了ス

3 昭和十八年三月三十日、パレンバン飛行場ニ展開、命

セラル、四月三十日、完了ス

(日本ノート納)

陸軍

3. 昭和十九年一月十二日、スミラニ較進ヲ命ゼラレ

四月十五日、ロトシ飛行場ニ展開定テ終戦ニ至リ

其間各飛行場ニ於テ飛行部隊ニ協力セリ

三、参加セル主要作戦

~~東部軍要作戦(東軍)~~

~~東部軍防作戦(東軍)~~

~~漢口、洛陽、鄭州、開封、徐州、南京~~

1. 南部佛印進駐作戦

2. ビルマ作戦

3. パレンバン防空隊、スマタ防衛作戦

(日本ノート編)

陸軍

14th Air Intelligence Wing

第十四航空情報聯隊

一、編成年月日 及 編成地

昭和十七年十月三十日 ハンバロン

二、編成より終戦迄ノ経過

第十四航空情報聯隊

一、編成完結ヨリ本部ニハバンコクニ置キ同地周辺ノ航空

警戒戒厳ニ氣象情報ノ蒐集ニ任ズ

1. 昭和十九年十一月一日 暹羅軍機中隊ニ増城編成

3. 昭和十九年四月三十日 第十四航空情報聯隊トナル

4. 昭和十九年五月二十五日 逐次中隊数ニ増加スルハバン

コク地方空ニ任シ終戦ニ至ル

三、参加セル主要作戦

ハロンバノ要地防空線ノヌトシテ南部馬來防衛作戦

第十 航空情報隊

一 編成年月日及編成地

昭和十九年九月十八日 日本 磐田

二 編成より終戦迄の経過

昭和十九年十月十日、スマトラ飛来、為内地本發

昭和二十年 十二月十日、パレンバン着

本部よりパレンバンに位置し一部よりバンカ島に展開

昭和二十年四月五日 實戦警戒任務に對空監視に依り

警戒任務に服し終戦に至り

三 参加した主要作戦

パレンバンに防空、並にスマトラに防衛作戦

第三十五 対空無線隊

一 編成年月日及編成地

昭和十九年四月三十日 パレンバン

二 編成より終戦迄の経過 (編成を結了)

本部よりパレンバンに位置し 南部にスマトラ主要

飛行場を展開 各飛行部隊等に防空飛

行隊を協力

三 参加した主要作戦

パレンバンに防空、並にスマトラに防衛作戦

陸軍

第十一航空通信聯隊第四中隊

Mr. Company 11th Air Communication

一 編成年月日

場所

昭和十九年一月十日

北海道札幌

(南方派遣ノ為無縁ノ中隊編成ス)

二 編成経路

一 昭和十九年一月十日 南方派遣ノ為内地本發

二 昭和十九年一月三十日 第十一航空通信聯隊ニ編入ス

本隊ニ 昭南ニ位置ニ各地下ノ航空團係地上通信係

(南方)

三 昭和十九年十二月一日 中隊主力ヲハシラシニ推進ニ通信連絡

ニ任シ終戦ニ至ル

三 参加主眼要作戦

一 昭南ニ南方馬車防衛作戦

陸軍

第四航制隊

一 編成年月日及編成地

昭和十七年十月十五日

昭南

二 編成より終戦迄の経過

昭和十七年十月三十日、又マトラに派遣、為昭南後

十一月三日、メダニに上陸、本部に於てニ置キ、北部にマトラに

主要飛行場を展開ス

(意) 遂次

2 昭和十八年業務概要、各隊を増加し、印度洋明成ニ

張力を協力の實施ス

昭和十九年、青三三三部隊本部にバレンに推進シ

所在飛行部隊協力、終戦ニ至ル

三 参加した主要作戦

又マトラの周辺地に真珠戦線、又マトラ南部島東、

防衛作戦

Communication Survey Report
3rd Air Force

陸軍

第三航空軍通信調査班

一 編成年月日 場所

昭和十九年五月三十日 滿洲國新京

二 編成より終戦迄の経過

昭和十九年六月十四日 南方派遣、為新京書發

昭和十九年八月二十日 昭南上陸

本機三機回ミラ、スミラ、ハニバンニ派遣ヤリ

(第一回 十月三十日、第二回 十一月六日、第三回 十一月十四日)

尔後同地ニ本部ヲ遣テ通信調査勤務ニ従事シ終戦

ニ至ル

三 参加セル主要作戦

スミラ、南印、馬來防衛作戦

陸軍

第十四師團戦氣象隊

一、編成年月日 編成地

昭和十九年六月三十日 ハンバイン

二、編成より終戦迄ノ経過

一、本部ヨリハバンビニニ遣キ、~~...~~シヤウ、~~...~~島合戦ニ展開 所在航空部隊 対シ氣象協力ヲキニ

終戦ニ至ル

昭和十九年十一月三日 中隊ニ増加シ、~~...~~ハル

諸島ニ展開セラル、又林林被一ヲ編成シ氣象協力

ヲ張ル

昭和十九年四月三日 更ニ中隊一ヲ増加編成シ、~~...~~

北東ニ才地ニ展開 更ニ氣象協力ヲ増シ終戦ニ至ル

三、参加セル主要作戦

スミヤカ 南部馬來 防衛作戦

19 16. Army Maintenance
第十六野戦修理隊第三分隊

一 編成年月日 編成場所

昭和十七年五月三十日 メダン

二 終戦迄の経過

昭和十七年九月二十五日、本隊はパレンバンに到着

十月一日、パレンバンに到着

昭和十七年三月四日、パレンバンに發、スラバヤに三日の進

昭和十七年九月十五日、スラバヤに發、パレンバンに二日の進

今年 十月二日、パレンバンに發、南、終戦迄の経過

此間各地に於て航空機を補給修理に任じ

三 参加したる主要作戦

メダンのパレンバン、スラバヤ、各地防衛作戦 助力

The 3rd Branch Depot of 16th Field Repair Depot

1) Formed on 31st, May, 1942 at Medang, Sumatra.

2) Movement:

On 25th, Sept., 1942 left Medang and arrived at Palembang on 1st, Oct., 1942.

On 4th, March, 1943 left Palembang and advanced to Soerabaya, Java.

On 13th, Sept., 1943 left Soerabaya and advanced to Palembang.

On 2nd, Oct., 1943 employed at Palembang, and met with the termination at Palembang.

The Depot engaged supplies and repair of aircraft at the above mentioned ~~oper-~~
ative places.

3) Main operation engaged in:

Collaboration for the defence operation of Medang, Palembang and Soerabaya
strategic point.

(ロキナー案)

37th (Reserve) Coy. Army

陸軍

第三十七飛行場中隊

一 編成年月日 及 編成地

昭和十八年十一月二十九日 日本 ^{オランダ} 十月

二 編成より終戦迄の経過

昭和十八年十一月末よりオランダに派遣し島内司令部

昭和十九年二月十日 ハンバンの上陸ヲハトニ展開シ

終戦ニ至ル

其間オランダ軍に飛行場ヲ於テ飛行部隊ニ協力

準飛行場整備ニ係ル

三 参加セル作戦

ハンバンの防空 砲撃 スミダ防衛作戦

第百二十二野戦飛行場設定隊 122nd (Reserve) Field W. Unit

一 編成年月日 及 編成地

昭和十八年十二月三十一日 ハンバン

二 編成より終戦迄の経過

昭和十九年一月十日 第九飛行師団ノ指揮下ニ入り

ベトナム、シンジバト、トランスバハ、ラゴアタン、各飛行場ヲ

爲飛行場設定

中東東部ハンバカニ飛行場ヲ補修スル 実戦ニ終

戦ニ至ル

三 参加セル主要作戦ナシ

(四ノ一四部)

0307

Our Relations

陸軍

Journal of the Japanese Army

「タンジニカ」飛行隊

一 編成年月日 及 場所

昭和二十年三月十五日 ハロバン

二 編成より終戦迄ノ経過

一 編成迄ノ第一対潜攻撃隊ハ「バタン」

第二対潜攻撃隊ハ「タンジニカ」ニ展開シ、スエトラ

島周囲ニ出沒ス。潜水艦ノ攻撃ニ任ズ

三月月中旬

第一第二対潜攻撃隊ヲ併セ、対潜攻撃隊ト呼稱シ

「タンジニカ」ニ位置ニ依テ、対潜攻撃ニ任ジ、終戦ニ

至ル

三 終戦後、対潜攻撃隊ヲ「タンジニカ」飛行隊ト呼稱ス

三 参加セル主要作戦 ナシ

23

翔忠戦斗隊

一 編成年月日 昭二〇年六月二十日

昭二〇年六月二十日 スミダ「ボトン」

二 編成より終戦迄の経過

昭二〇年七月二十二日、大島に前進、スミダの防衛作

戦、為北部、スミダ、近海に大規模機動部隊改集。

（スミダ、終戦迄の経過）

三 参加した主要作戦

一 昭二〇年九月一日 満洲國牡丹江ニテ編成

昭二〇年八月迄 満洲各地ニテ警備ニ任ス

昭二〇年九月より昭二〇年九月迄 中南支ニ戦戦（支那）

昭二〇年十月より一九二一年一月五日迄 佛印（ハイン）

昭二〇年一月五日、スミダの防衛ニ任ス

昭二〇年六月五日、ハインに参戦

昭二〇年十月五日、比島作戦参加

昭二〇年十一月三日、スミダに前進

昭二〇年十一月三日、ハインに展開

昭二〇年十一月三日、スミダに復帰

昭二〇年十一月三日、スミダに復帰